

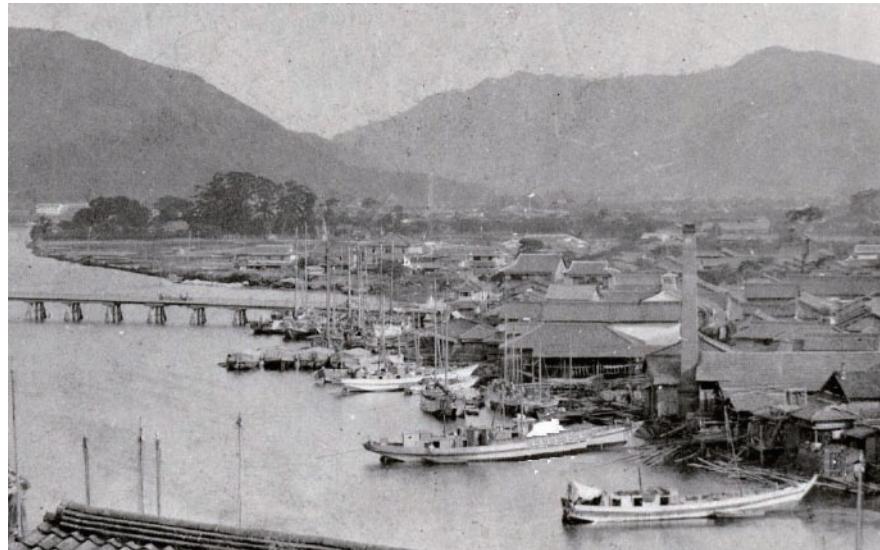


# 浜風だより

大正年間に撮影された現在の浜崎市場周辺

奥は当時の雁島橋

## 伊勢島利介商店と望楼



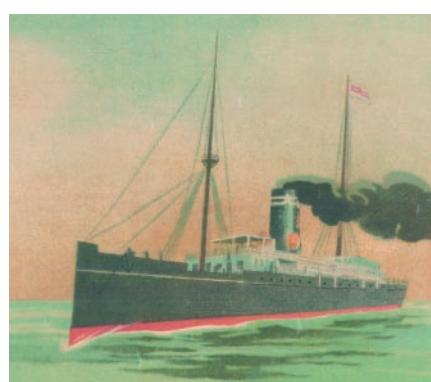
### 伊勢島利介商店メモ

- 明治20年（1887）大阪商船株式会社の取次店。
- 明治22年（1889）伊勢島利介の勧奨により、萩の夏橙仲買商が集まり、萩蜜柑輸出仲買商組合を結成する。（組合長 山中三吉）
- 明治34年（1901）萩の夏橙仲買人らが長州夏橙同業組合を創立する。
- 明治39年（1906）長州萩夏蜜柑組合が設立される（44年に解散）。組合長菊屋剛十郎。従来の萩夏みかん輸出仲買商組合所属の仲買商も本組合に吸収合併される。組合長であった山中三吉は販売部支配人となる。
- 明治40年（1907）長州萩夏蜜柑組合に吸収合併されていた萩夏蜜柑輸出仲買商組合は、分離独立して元にもどる。
- 神戸一馬関駅間開業は明治34年。

清水満幸

### 検索してみてください

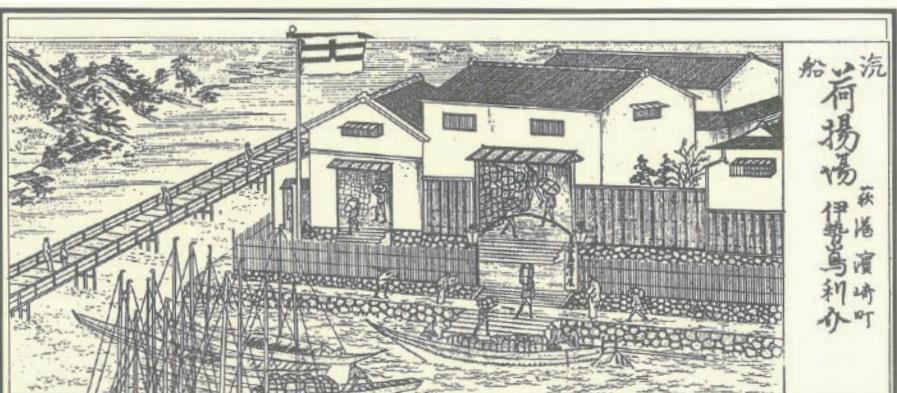
これまで清水さんに書いて頂いた「浜風だより」のコラムや、それに関する資料が、萩博物館のブログに順次掲載されています。「萩博物館はまかぜだより」で検索してください。



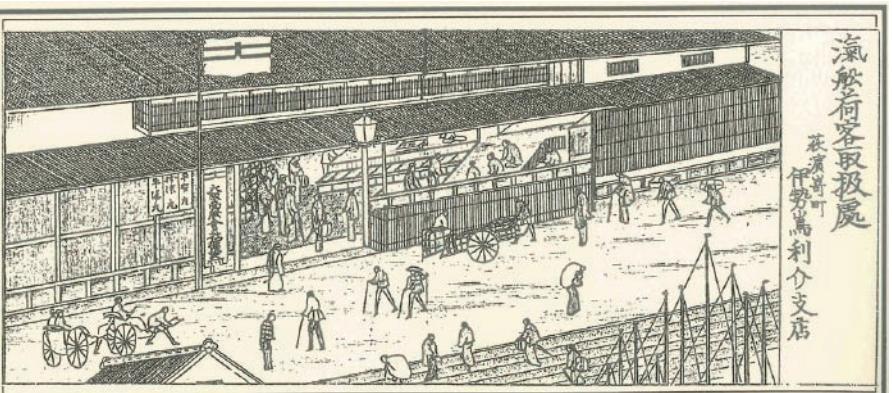
ポスター(一部)に描かれた大阪商船の汽船



旧山中家に所蔵されていた大阪商船のポスター



伊勢島利介商店 荷揚げ場



伊勢島利介商店

『山口県豪商便覧』という、明治19年（1886）に刊行された商工便覧が伝わっています。県内各地の商店や会社、製造所などを、当時先進の銅版画（エッチング）で紹介したもののです。山口、防府、徳山、柳井、岩国、萩の171業者が掲載されていますが、そのうち萩については、46業者を数えることができます。掲載業者数の四分の一強を占めるということで、明治中期の萩の活況がうかがえます。この便覧の中に、「汽船荷客取扱処」「汽船荷揚場」として浜崎の伊勢島利介商店が紹介されています。実は、萩以外にも13の汽船荷客取り扱い業者や回漕業者が紹介されていて、当時の物流において船が大変重要な位置を占めていたことが分かります。ちなみに、神戸一馬関駅（下関駅）の山陽鉄道が全線開業するのは、明治34年（1901）のことです。明治20年頃より京阪神に盛んに出荷されるようになつた萩特産の夏みかんは、当初は、専ら船で運ばれました。

そのような貨物に加えて人も運んだのが、浜崎に寄港した大阪商船会社の汽船でした。社史などによると、明治17年（1884）に、大阪と境港・安来を結ぶ蒸気船による定期航路が開設されます。隔日の運航で、山口県の日本海側では江崎、須佐、萩、仙崎に寄港しています。伊勢島利介商店は、その大阪商船会社の代理店として、荷客取り扱いをしていました。商店があつた場所は、「萩印刷」があつた場所です。明治期には松本川沿いの道路はなく、商店の東側（川側）がすぐに岸壁・ガンギ（石段）となっていました。そこで、商店の店先には、漢字の「大」を図案化した大阪商船会社の社旗が掲げられています。商店があつた場所は、「萩印刷」があつた場所です。明治期には松本川沿いの道路はなく、商店の東側（川側）がすぐに岸壁・ガンギ（石段）となっていました。そこで、商店の店先には、漢字の「大」を図案化した大阪商船会社の社旗が掲げられています。商店があつた場所は、「萩印刷」があつた場所です。明治期には松本川沿いの道路はなく、商店の東側（川側）がすぐに岸壁・ガンギ（石段）となっていました。そこで、商店の店先には、漢字の「大」を図案化した大阪商船会社の社旗が掲げられています。

の図によれば、蔵は川側に開口していて、船（はしけ）との間での荷物の積み降ろしが行われていたことを見て取ることができます。また伝承によると、伊勢島商店は船宿を兼ねていてとされます。そして、建物の屋根の上には、船の出入りを確認することができる望楼（写真左〇印）があります。林家（奈古屋商店）に伝わる「萩博物館はまかぜだより」で検索してください。

また伝承によると、伊勢島商店は船宿を兼ねていてとされます。そして、建物の屋根の上には、船の出入りを確認することができる望楼（写真左〇印）があります。林家（奈古屋商店）に伝わる「萩博物館はまかぜだより」で検索してください。

また伝承によると、伊勢島商店は船宿を兼ねていてとされます。そして、建物の屋根の上には、船の出入りを確認することができる望楼（写真左〇印）があります。林家（奈古屋商店）に伝わる「萩博物館はまかぜだより」で検索してください。

# 舟舸子

か  
こ  
7月4日 猪子 176 がオープンします。



浜崎4区の旧藤井家住宅（藤政商店）  
がフルリノベーションされ「舸子 176」  
として生まれ変わりました。

いい吉（鍋料理）、茶寮 百茶一芯、ギャラリー 舞子の蔵、六氣（りっき・月一回程度、鎌倉「古我邸」が手がけるフランス料理）が入る複合施設です。デザイナーの手により外観・内装・庭・土蔵、すべてに品格と美しさが備わり、建物を見るだけでも感動します。

ぜひお訪ねください。



庭の奥はギャラリーとして使われる土蔵。庭石も、ほとんど入れ替えられました。

今年の「おたから博物館」は凄かったです！



す甲で催数まで好博物館。5月22日開催の浜崎伝建おたから  
斐き、一浜崎蚤の市一には人だかりがて準備をしてきました。来年も頑張りました。

**大槻洋二さんの著書が発刊されました**



本紙のコラムをお願いしている大槻洋二さん（萩博物館長・萩市商工観光部次長）の著書「萩の歴史的町並み 上・下巻」が発刊されました。深い研究のもと、町並みの成り立ちから現在のまちづくりまでを、読みやすく解説してあります。もちろん、浜崎の歴史や住民活動についても述べられています。ご購入の上ご一読をお勧めします。



しつちゅる会作製の浜崎のホームページが出来上りました。見どころ・買い物・食事など浜崎の魅力を発信していきます。右のQRコードを読み込むか「萩市浜崎ホームページ」で検索してみてください。<https://hagi-hamasaki.jp/html/>



近崎志ハペジ

◆編集後記◆

わたぬきクリニック院長 綿貫篤志